みいけ主婦会

※原稿送り先＝大牟田市不知火町2丁目　三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき＝市内3033・7140　炭鉱　474・528
※責任者＝文教部長　川畑信子

美しい婦人の地位
来山したソ連婦人と懇談

国際婦人デーに来日され、たたかう三池の主婦を激励するため、三月九日来山されたソ連婦人代表トロイツカヤ夫人、チエコダさんの二人を、主婦会では駅頭で各支部役員以上が出迎えました。女として母親として真の幸を勝ちとられた婦人だけに、力強いたくましさで「ソビエトの母親たちが一番望んでいることは子供たちと平和にくらすことである。そのために出産、託児所、教育施設の完備など子供が健全に成長するよう心がけている」と実例をあげ、三池闘争についても「働らく者のしあわせのためにしっかり頑張って下さい」と挨拶された。このあとニュースカーで関連産業、港務所などを視察し、新港社宅では闘う主婦の家の中をみられ、日常生活の実状をきくなど、なかなか熱心な見学でした。そのご組合本部で二人を囲み、主婦会支部長以上と懇談会をしました。

◎ジナイダ、ペトローフナ・トロイツカヤ（ソビエト婦人委員会メンバー、地下管理局次長）
◎ニーナ・イワノブナ・チエコダ（アカデミー東洋研究所々員）

完備した諸設備

問　社宅をたずねられてどう感じられましたか。

答　主婦の配慮で清潔に整とんされていました。しかし寒いだろうと思います。小さい子供たちがいたら寒くて大変でしょう。ソビエトにはこういうことわざがあります〃それぞれの地方にはそれぞれのやり方がある〃日本の方たちもそれぞれやっていられるでしょう。

子供たちの教育について

問　労働者の子供の教育はどのようにされていますか。

答　すべての女性にとって一番大切なのは子供です。だから、すべての女性が子供と平和に暮すことができることをのぞんで、そのための配慮をはらいます。そのために、子供が生れる以前から、細心の注意がはらわれます。初めて出産する場合は、子供が生まれる前に治療すべきものは治しておき、出産が困難な場合は早目に病院に入れて母体を守ります。

はじめて母親となる人のためには、経験のある看護婦が家まで行ったりして、おむつの当てかたから説明します。働らく母親のためには産前産後、ふつうの給料をもらって百二十日の休暇がとれ、少ない給料を受けていた女性は特別多くあげます。二カ月から三才まで、保育所にあづけることができます。保育所に払う金は全部が一律でなく、給料の額によってきめられます。だが、ほとんどが国家から出します。三才から七才までが幼稚園で、学校教育の最高学府については、その人の意志と能力があれば、すべて無料で学問をすることができます。

ソビエトの女性について

問　ソビエト女性はどんな生活をしていられますか。

答　ほとんどが働いています。女性は男性と同じく経済能力をもち、民主的な家庭生活をしています。ソビエトの女性は時間にそくばくされず、自由に精出すことができ、そのため明るい家庭を築いています。女性は五十五才から年金制になり、また五人の子供を育てた女性は五十才から、比較的健康がすぐれない人は四十才から、病弱の人は年令にかかわらず年金制になるという社会保障が行われています。

革命前の女性について

女性の地位はひくく託児所その他の施設もなかった。だから女性の地位を実質的にたかめるためには、どうしたらよいかといつも頭においていました。いま私たちは何不自由なくくらしていますが、他の国の人たちの生活に興味をもっています。

ソビエトの生活面について

問　日常生活についてはどんなふうですか。

答　失業者はなく、労働者はたりない。機械化によって労働者の労働条件を向上させています。モスクワの地下鉄は二十五年記念をむかえますが、一度も死傷事故がありません。人間がまず第一に大切にされています。社会主義社会では計画以上の仕事を遂行して利益を上げた場合そういう人達の中から経営者と組合が話し合って賞金を出したり、旅行や病院の建設などにつかわれます。また特別に婦人団体はありません。

「社会主義社会は本当にすばらしいですね」、「まつたくうらやましい話です」、「首切り合理化などで人間として生きることをもいためつけられる世の中を早く住みよい世の中をつくりたいものですね」と語り合い、つらいことも苦しいことも闘いの中ではあるが、大きな幸を得るまでは、小さな自の前だけの欲に迷わず、前進することを、お互いにちかい合い午後五時半に終りました。

大牟田駅頭で花束を受けられる
トロイツカヤとチエコダさん

みんな闘う仲間だ
全国オルグ達の帰山報告

主婦会では北海道をはじめ、常磐、山口、九州など、各地への逆オルグを派遣して、闘争実状の報告、座談会などオルグ活動をおこなったが、行くさきざきで激励をうけ、いまさらながらこの闘いが、暖かい仲間の支援のなかでおこなわれていることを知り、いよいよ勝利への確信を深めた。各オルグは帰山ご、感想をつぎのように寄せてきた。

仲間の暖かい手

宮浦　佐伯愛子
本部　生清睦子

【北海道地区】二十三日大牟田を出発し、札幌に二十六日に着きました。

そこでいろいろ意志統一をおこない六名が三地区に二名宛、一班が釧路地方、二班が夕張地方、三班が留萌地方とそれぞれの担当地区に向いました。

まず私たちがついたのは雨竜労組でした。私たちは本当に心から親しまれ、自分の山元にいるような気持でした。働く者仲間同士はこんなにも親しみ深くあるのか、と思い組織のありがたさが身にしみました。

ここは小さな炭鉱です。組合員約七〇〇名ですが、非常に闘争の経験を多く持っているところです昭和二十四年には賃金遅欠配反対の闘争中に第二組合ができ、そのころは終戦後であり、食生活の不自由なときでした。

食べ物にうえている組合員の心理を会社がうまく利用し、第二組合には白米を食べさせるという差別をしたそうです。その差別待遇にたえきらずに主婦たちも第二組合に入ることは悪いと知っていながら、食べることにはかえられないといって脱落しそうなものが出たので毎日主婦会が交替でとぼしい中からメリケン粉をもちよって炊き出しをやり組織をくずさぬため がんばったそうです。

このように小さい労組でも最後

励ましに疲れもふきとぶ

四山　尾田恒子
本所　吉田アツ

【北海道地区】約二週間の予定で北海道にオルグとして二月二十三日出発しました。北海道につくとすでに私たちの到着をまつていたたいへんな歓迎陣につつまれ、みんな「三池の闘争はたいへんですね」と心からはげましてくださいました。

私たちは、この友情あふれるひとことに感激の涙がほとばしるのをおさえきれず、旅の疲れもふきとんでしまいました。

北海道といえば、寒さと広野を連想しますが、そのどちらも大陸的で、この地に三井鉱山が三つもあることと炭ほる仲間が八十七支部七万三千人をこえると聞いて力づよく思いました。

またこの人たちからあたたかい闘争資金のカンパがおくられていることを思い、自然に頭がさがる思いでした。

組合・主婦会の各幹部は三池闘争について、とても詳細に現地状況を調査し報告がなされており、どこへ行ってもよく連携がとれており、地域座談会で三池闘争を話しますが質問も活発で理解が早いのにおどろきました。そして組合員と主婦会員との間が非常になごやかでよくとけあっていて、たいへん気持ちのよい人たちばかりでまでがんばれば勝てる自信をもつて勝抜かれたことを闘いて私たちも「統一と団結」を守ることが勝利への道だとしみじみ思いました

神威、砂川では各操込場にカンパのお礼と闘いの経過を報告したとき、〃三池がんばれ、自分たちもカンパだけでなく一生懸命がんばる。一万円生活で苦しかろうがここで三池が負けたらたいへんだがんばつてくれ〃と涙ながらに握手された各山の仲間たちの暖い友愛にたいして私たちオルグは本当に一人の脱落者も出さないように一生懸命がんばろうとちかつたのです。

さらに三月五日には北海道主婦会代表者会議に出席し心からのお礼とこれからの協力を訴え、私たちもぜつたい悲鳴を上げることなくがんばることを涙の中でちかいたい握手を交しました。その手のあたたかさはいまの私の手を通じて胸ふかくもえています。

勝利の確信を深めた

宮浦　上村一子

【山口地区】四日間のオルグ活動を終つて帰山し組合支部についたとき、下手な鉛筆字の自分のハガキが目につきました。

〃きのうは山奥の中小炭鉱へ行つて泣きました。涙と汗で顔はクシャクシャです。でも、きょうから三日間、私に与えられた責任と使命を痛感してがんばります〃

これが、こんどのオルグ活動の私の感想です。

「態度はあくまで謙虚にしよう相手は小山だ、強いことはいわないように……」と心に念じすぎたのと、活動初日の不安とで私はすつかり参つてしまつていたのです

組合員百四十名、臨時夫八十名の無煙炭の小山で、山口炭労美盛という組合です。執行委員は非常任で、第二組合の不幸な体験を味つているところです。第二組合のボスが殺されて、その死をいたむ者はひとりもなく、それ以来ひとつに団結して闘つている組合なのです。

せまい会場にギツシリつまつて文字どうり立錐の余地もなく、私とヒザ重なりになるありさまでした。闘志みなぎる空気にせまられて語る側も聞く側も涙をながしあい、心と心に何かしら通じあうものを感じ、まつたく文字ではかきあらわせない感激でした。

懇談のあと組合長は力づよくいつてくださいました。「自分たちの闘争が、ほんとうに自分自身の闘争として受け入れられていることは、私たちも血をわけた身内の者に話す感にうたれました

私たちは北海道釧路地区、赤平地区、芦別地区を大いそぎでまわりました。そのなかで、小山に入り三百名あまりの組織の中にも、労働者としての基本線を守りぬく心がまえが湧き出ているのを肌身にヒシヒシと感じさせられたことは、いまも忘れられないことのひとつです。

私たちはこんどのオルグ活動を通じて、遠い北海道が三池と隣合せになつた感じがします。私たちはもつともつと心をひきしめ、会社側の攻撃を正確に見極め、どんなことがあつても最後の勝利まで闘いぬき同志のあたたかい支援に報い、そして自からの明るい家庭生活と社会生活をきづきあげなければならないと決意をあらたにしました。

三池の闘争が、ほんとうに自分自身の闘争として受け入れられていることは、私たちも血をわけた身内の者に話す感にうたれました

私たちは北海道釧路地区、赤平地区、芦別地区を大いそぎでまわりました。そのなかで、小山に入り三百名あまりの組織の中にも、労働者としての基本線を守りぬく心がまえが湧き出ているのを肌身にヒシヒシと感じさせられたことは、いまも忘れられないことのひとつです。

私たちはこんどのオルグ活動を通じて、遠い北海道が三池と隣合せになつた感じがします。私たちはもつともつと心をひきしめ、会社側の攻撃を正確に見極め、どんなことがあつても最後の勝利まで闘いぬき同志のあたたかい支援に報い、そして自からの明るい家庭生活と社会生活をきづきあげなければならないと決意をあらたにしました。

徹底した支援態勢

本部　小川アキノ
本所　砥上淳子

【佐賀地区】二月二十三日その日の朝はうすぐもりの日でした。私たち二名は三池の闘いをみんなにひろげる重大な責任をもつたオルグとして、佐賀の吉賀山に着きました。

明けて二十四日から戸上さんは小さな山へ、私は杵島へ別れて行動いたしました。

杵島に行つてまづ感動したことは、敵よりも一日ながく統一と団結の九十六日間を闘い抜いてこられた杵島の主婦会の皆さんが、三池の闘いを自分のものとしておられたことです。

また、九十六日の闘いを契機に闘争積立として一日五円のヘソクリ貯金を実施しており、それが最近二十円に額上げすることをきめ実行にうつされている会員も相当数あるときいて、杵島の底力はここにあるのかと心強く思いました

岩屋に行かれた戸上さんは、三池の私たちはみんなのカンパで生活しているのに岩屋あたりとくらべてまだまだぜいたくとかんじた小山にいつてその生活実態も見てまいりました。三池さんに勝つてもらわないと私たちはこれからたたかえません。私たちは十円でもけん約してカンパします。いままでの郵便貯金は労金にただちに切替えます〃と力強くはげましてくれました。私たちはこの気持を裏切ることはできません。

会社の分裂策動をハネ返えし団結を守つて闘いぬくことをみんなで誓いあいましよう。

私はどうしても一万円生活のことを口にだせなかつたと感慨深く語していました。

まつたく、小山で苦しい生活をしながらも、三池支援に立上つていられる姿をみてはそう感じます

佐賀の主婦会のみなさんの〃組織ゆさぶりをする批判分子にはカンパ金は絶対に御免です。一生懸命闘い続けていなさるみなさんには六〇〇円はおろか一・〇〇〇円でもおしみません〃という仲間同志の暖い友愛の言葉に私たちも闘いはこれからだという気持をさらに強くして、六日間のオルグを終えて帰りました。

みんな一緒に闘つている

宮浦　石河アヤ子
港務　芹川スミ子

【常磐地区】私たちは二月二十一日から三月三日までオルグとして常磐地区をまわりました。

常磐炭田といえばまず二十七年の六三ストのときの愛切者武藤武雄一派が多い全労系炭鉱がいくつもあるところで、その中に炭労加盟の大手吉河のほかいくつかの中小鉱があります。

私はこのなかの中小鉱に入り、まづ全会員が私たち三池の闘争にとてもふかく理解しているのに感きました。そして母親としての同じ立場から隣の家にでもいるような気持でうちとけ話合えました。六〇〇円カンパについても〃同じ炭鉱労働者です。当然のことですよ〃といわれたときには目の底がジーンとしました。

そして〃一万円生活大変でしよう。学校に行つている子供はどうしていますか〃などと具体的な生活の話になり、〃私たちはいままで三池の後押しと思つていたが、いつしよに闘つていることがわかりました。三池さんに勝つてもらわないと私たちはこれからたたかえません。私たちは十円でもけん約してカンパします。いままでの郵便貯金は労金にただちに切替えます〃と力強くはげましてくれました。私たちはこの気持を裏切ることはできません。

会社の分裂策動をハネ返えし団結を守つて闘いぬくことをみんなで誓いあいましよう。

【編集部より】
逆オルグで活動されてこられた人たちの感想記を発表しましたが、長崎地区に行かれた小后田綾子さんと田中京子さん、福岡地区の古沢富美子さんからの原稿も来ていますが、紙面の都合で、今回は掲載できませんでした。次号にて掲載しますのでご諒承をお願いいたします。